

<北海道熊研究会報>

第 22 号 2014 年 2 月 23 日

ご意見ご連絡は下記へどうぞ

北海道熊研究会事務局 北海道野生動物研究所内(Tel. 011-892-1057)

代表 門崎 允昭 e-mail: kadosaki@pop21.odn.ne.jp

事務局長 Peter Nichols ピーターニコルス氏

幹事長 藤田 弘志 氏

北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association

Website は「北海道野生動物研究所」と入力して下さい

「北海道熊研究会」Hokkaido Bear Research Association の活動目的

熊の実像について調査研究し、熊による人畜及びその他経済的被害を予防しつつ、人と熊が棲み分けた状態で共存を図り、狩猟以外では熊を殺さない社会の形成を図るための提言と啓発活動を行う。

この考えの根底は、この大地は総ての生き物の共有物であり、生物間での食物連鎖の宿命と疾病原因生物以外については、この地球上に生を受けたものは生有る限りお互いの存在を容認しようと言う生物倫理(生物の一員として人が為すべき正しき道)に基づく理念による。

2013 年 11 月 5 日、UHB 大学主催で、「熊とは、そして、札幌の市街地に熊が出て来る本当の理由」と言う題で、門崎允昭が約 80 分間、道新ホールで 500 名程の聴衆に講演をした際の全文の、今回はその 3 回目として、下記文章を掲載致します。お読み下されば幸甚です。

[7] ヒグマの出現についてお話しします

今から 250 万年程前からユーラシア大陸(これはヨーロッパ大陸とアジア大陸を合わせた呼称ですが)には、現在の熊よりも、少し小型のエトルスカスグマ *Ursus etruscus* が広く棲息し、そして、今から 90 万年ないし 80 万年前の氷河期の最寒冷期に、ウラル山脈(ヨーロッパとアジアの境界にある山脈)ぞいにスカンディナビア地方から大きく張り出した氷床(氷の塊、大氷河)によって、このクマはヨーロッパ個体群とアジア個体群に完全に分離されてしまいました。なお、氷河期については、後ほどお話しします。そして、その後、ヨーロッパ個体群はホラアナグマと言う「自然に出来た洞窟で越冬を好むに、そして、アジア個体群はヒグマに進化したと考えられています。熊は自ら掘った土穴で越冬すると言う特徴があります。いずれにしても、熊はアジア大陸でエトルスカス熊から進化出現したもので、日本で進化出現したものでは無いということです。なお、月輪熊もやはり、アジア大陸でミヌス熊から 250 万年程前に進化出現しました。

ヒグマの最古の化石は、中国の北京の西南約 40km にある、あの北京原人が発見された、周口店の 50 万年前の地層(最近では 70 万年前と言われてますが)、そこから出土したものです。そして、約 25 万年前の間氷期の始まりとともに気候が温暖化し、ウラル山脈ぞいに張り出でい

た氷床が、北極の方へ後退するに従い、それまで分布が、アジア大陸にのみに限られていた熊が、分布をヨーロッパに展げ、以来、一万年程前に、ホラアナグマが絶滅するまで、ヨーロッパでは、熊とホラアナグマが、共棲していた、ということです。

一方、気候のさらなる温暖化に伴い、ウラル山脈の氷床の後退（氷が消えることを言います）と、時を同じくして、シベリア北東部の氷床も、北極の方に後退しはじめ、熊はその氷床を追うように、氷床沿いにシベリア北東部から、ベーリング海の海水を歩いて北米のアラスカ中南部へも、分布を拡大し、さらに、北米大陸の東部や南部の氷河迄、分布を拡大していった、ということです。

[8] 次に、日本の熊の由来について、お話しします

既にお話したとおり、月輪熊も熊も、アジア大陸で、その祖先型 から進化しました。日本で進化したものではないのです。

それでは、大陸から、日本へ何時・どのようにして分布を広げて、日本に棲み着いたかといいますと、氷河時代に移住してきたものです。氷河時代の年代等は、研究の進展で変わり得ることを前提に述べますと、

日本に熊や月輪熊が移住して来た、と考えられる氷河時代と言うのは、過去に4回あったと言われています。氷河時代と言うのは、原因は未だ、明確ではありませんが、大気中に火山灰が浮遊等して、太陽光が遮られる等して全地球的規模で、数万年単位で、地球全体の気候が寒冷化した時代を言います。この間、海水が蒸発し、これが雪の原料となり、陸地や氷海に降り積もったものが、低温のため融解せずに、どんどん蓄積した結果、海水が減少し、海面が低下して、氷河期にはアジア大陸と日本列島の総て、またはアジア大陸と日本列島の一部が、陸続きになった、と言う訳です。これは、世界の他の地域についても言えることです。

アジア大陸と日本列島間には、5つの海峡（即ち、朝鮮と対島間の朝鮮海峡・対島と九州間の対馬海峡・本州と北海道間の津軽海峡・北海道とサハリン間の宗谷海峡・サハリンと沿海州間の間宮海峡）がありますが、4回の氷河期のうち、最後の氷河期を除く、前3回の氷河期、これは今から、47万年前から13万年前の間に、あったのですが、このときは、年平均気温が現在と比較して、日本の場合、6～7℃低かったと考えられており、海水面は、現在と比較して約140m低下し、日本列島はアジア大陸と完全に、陸続きになっていた、と言うのです。これはどう言うことかと言いますと、各海峡の両側の岸辺から、最も浅い所を、順次辿った場合の、最も深い場所の海の深さが、いずれの海峡も、140m以下で在るという事です。ですから、海水面が現在より140m低下しますと、日本列島はアジア大陸と、完全に、陸続きになる訳です。年平均気温が6～7℃低下すると言う事は、現在の東京の年平均気温が（14.7℃）で、現在の札幌の年平均気温が7.6℃ですから、単純に言えば当時の東京の気温は、現在の札幌並の気温であったと言うことです。

（了）